

第1章

犬山市の概要

- 1. 犬山市の自然的環境
- 2. 犬山市の社会的環境
- 3. 犬山市の歴史的環境

1. 犬山市の自然的環境

(1) 位置・地勢

本市は濃尾平野の北東部及び愛岐丘陵の北西端に位置し、名古屋市からは北へ約25kmの距離にある。市域は東西に約12.3km、南北に約12.6km、面積は74.9kmである。北は木曽川を隔てて岐阜県各務原市や坂祝町と接し、東は岐阜県可児市や多治見市、南は愛知県小牧市や春日井市、さらに西は愛知県丹羽郡扶桑町や大口町と接する。

市域の北端を流れる木曽川は、生活用水の供給源としてだけでなく、交通手段、生産手段として木曽川の恩恵をもたらすなど、この地で暮らしてきた人々の営みの基盤であった。また、木曽川の堆積物によって形成された扇状地には市街化が形成されるなど、今もなお本市との強い結びつきを感じることができる。加えて、八曽山を水源として市の東西を貫流する五条川、合瀬川などの人口河川や農業用水、全国屈指の規模を誇るため池である入鹿池など、豊かな水系が市内を巡っている。

一方、市域の東半分は八曽山、本宮山、尾張富士など300m級の山地がそびえており、このような環境の下で育まれた特有の文化や伝統は、今に伝えられている。

これら山々や水系が作り出す風光明媚な景観の数々は、名勝や観光スポットとして高い評価を得ている。



図3 犬山市の位置

出典: 国土交通省 国土数値情報を基に作成

市東部に位置する城東地区の東部及び池野地区は標高 130~200 mの丘陵地帯であり、城 東地区西部から犬山地区・楽田地区・羽黒地区にかけては標高 30 ~ 50 mの扇状地と河岸段 丘上の台地が形成されている。また、市北西部に位置する犬山地区には木曽川を北に臨む犬山 城を北端として南へ広がる台地の上に犬山城下町が展開している。

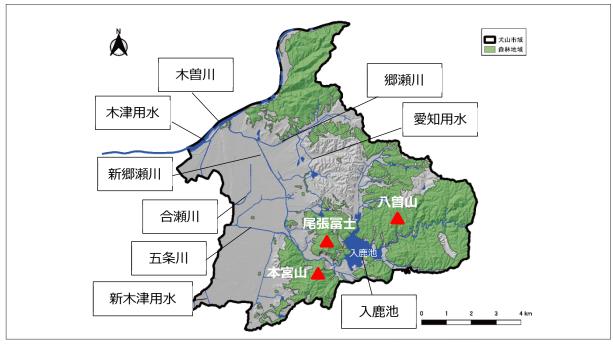


図 4 犬山市の地形・水系

出典: 国土交通省 国土数値情報を基に作成

(2) 気候

本市の気候は、温暖な太平洋気候区に属しているため、夏は南東からの季節風の影響を受けて雨が多く、蒸し暑い天気が多い。また、冬は北西からの季節風の影響によって山越しに冷たい乾いた風が吹き、晴天が多い。

令和3年(2021) の平均気温は、1月が3.9℃で最も低く、8月が27.0℃で最も高い。平均降水量も気温と同様、8月が最も多く、415.5 mmである。

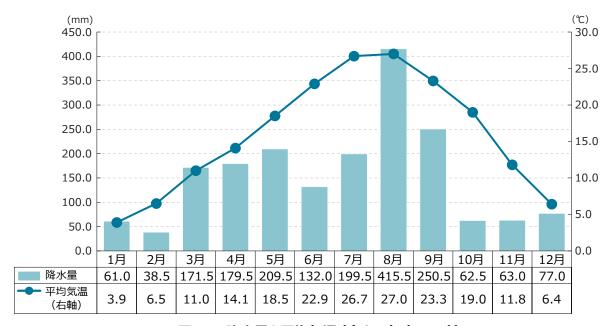


図 5 降水量と平均気温(令和3年(2021))

出典: 犬山市の統計

(3) 地質

本市は、西南日本内帯に広く分布する美濃帯の南部にあたり、美濃帯を構成する岩石はチャート(陸から離れた深海底で堆積した放散虫などのプランクトンの殻が固まった岩石)・砂岩・泥岩・石灰岩・玄武岩質火山岩類などである。 犬山地域のチャート層は厚さ約 100 mで、構成時期は、三畳紀中期からジュラ紀前期である。

犬山のチャートは赤茶色をしている部分が多く、これは海水中の鉄分と酸素が結合してできる赤鉄鉱の色である。赤茶色の層状チャートは、栗栖地区から犬山橋下流の木曽川河畔周辺で見られる。これらチャートは石器の材料となったほか、東之宮古墳の葺石や犬山城の石垣の石材としても利用されており、地質を活かした当時の生活がうかがえる。

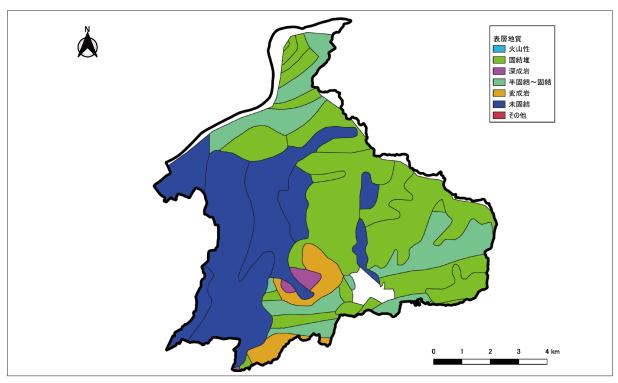


図 6 犬山市の地質

出典: 国土交通省 国土数値情報を基に作成

2. 犬山市の社会的環境

(1) 市の沿革

明治 22 年 (1889) に施行された市制町村制を受けて、明治 22 年 (1889) 10 月1日に犬山町制が施行され、善師野村、岩田村、今井村、楽田村、羽黒村、犬山町、岩橋村、高雄村の1町7村が誕生した。以降、交通の要衝として商業の発展が進み、昭和に入ると豊かな自然と歴史を併せ持つ観光都市として発展した。そして、昭和 29 年 (1954) 4月1日に犬山町、城東村、羽黒村、楽田村、池野村の1町4村からなる犬山市が誕生した。

現在、本市を分ける5つの地区(犬山地区、城東地区、羽黒地区、楽田地区、池野地区)は、この時に定められた行政単位が基になっている。

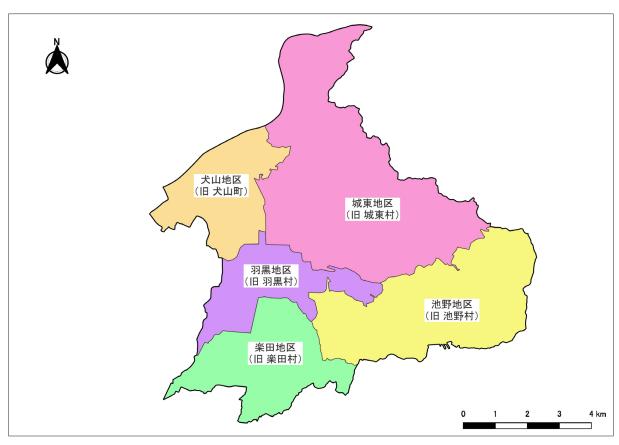
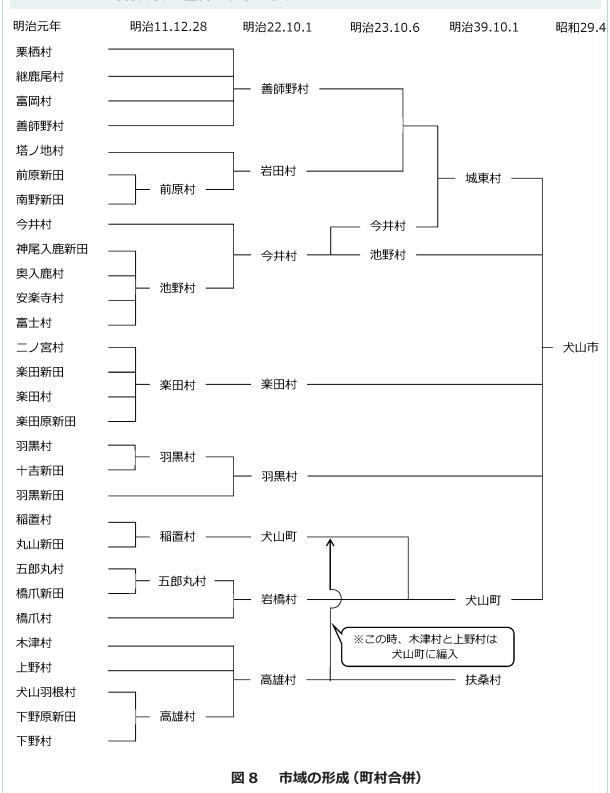


図7 本市の地区

出典: 犬山市都市計画課 大字境界表示図面を基に作成

明治以降において町村合併が繰り返し行われ、犬山城を中心とした城下町や農村集落 地域、東部丘陵地域などの様々な特性を有する地域が合併し、現在の犬山市の姿が形 づくられた。町村合併の経緯を以下に示す。



(2) 人口動態

令和4年(2022) 3月 31 日現在の市内人口は 72,693 人であり、市内人口は減少傾向を辿っている。年齢3階級別人口をみると、0~14歳人口は平成29年(2017)対比で1,089人の減少(-11.2%)、15~64歳人口は1,082人減少(同-2.5%)であった。65歳以上人口は355人増加(同1.7%)しており、全国的な傾向と同様、本市も少子高齢化の進行がうかがえる。市内人口が減少傾向にある一方、世帯数は増加傾向となっている。令和3年(2021)は平成29年(2017)対比で892世帯増加した。1世帯当たり人口は2.3人となっており、わずかではあるものの減少した。

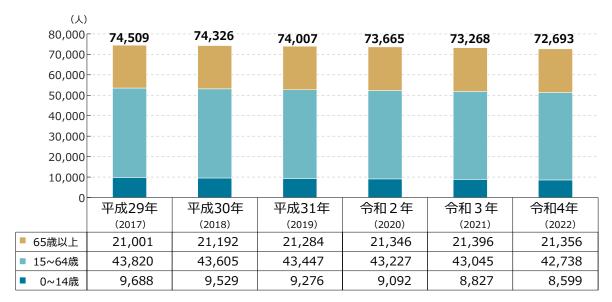


図9 年齢3階級別人口の推移

出典: 令和3年(2021)までは犬山市の統計、令和4年(2022)は地区別人口集計表(令和4年(2022)3月31日時点)

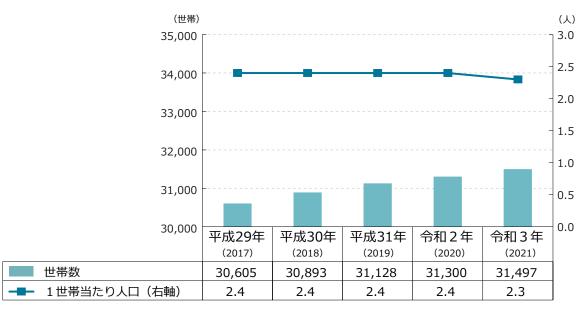


図 10 世帯数及び1世帯当たり人口の推移

出典: 犬山市の統計

人口移動の推移をみると、自然増減(出生数と死亡数の差)及び社会増減(住民の転入数と 転出数の差)ともに減少傾向である。特に、自然増減は毎年300~400人程度が減少している。

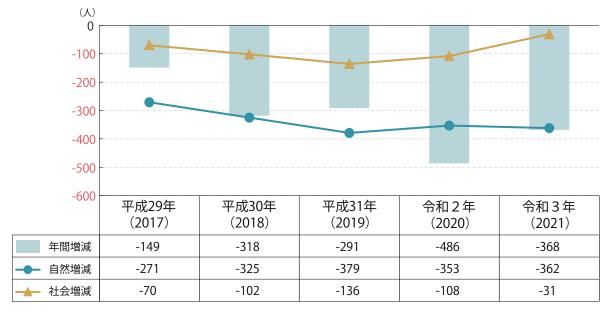


図 11 自然増減・社会増減の推移

出典: 犬山市の統計

「第6次犬山市総合計画」によると、本市の将来人口は減少を続け、令和47年(2065)には47,934人になると推計されている。そのうち約4割を65歳以上人口が占めている。

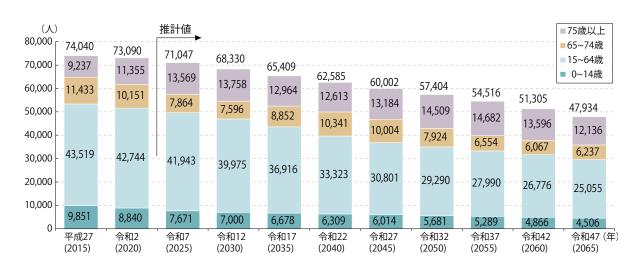


図 12 将来人口推計

表 2 65 歳以上及び 75 歳以上人口比率

| 年 | 平成27年(2015) | 和令2年 (2020) | 和令7年(2025) | 和令12年(2030) | 和令17年(2035) | 和令22年(2040) | 和令27年(2045) | 和令32年(2050) | 和令37年(2055) | 和令42年(2060) | 和令47年(2065) |
|------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 65 歳以上人口比率 | 27.9% | 29.4% | 30.2% | 31.3% | 33.4% | 36.7% | 38.6% | 39.1% | 39.0% | 38.3% | 38.3% |
| 75 歳以上人口比率 | 12.5% | 15.5% | 19.1% | 20.1% | 19.8% | 20.2% | 22.0% | 25.3% | 26.9% | 26.5% | 25.3% |

出典:出典:第6次犬山市総合計画データを基に作成

(3)-1 産業(全体)

市内の産業構造をみると、付加価値ベース (売上高 – 費用総額 (売上原価 + 販売費及び一般管理費) +給与総額 + 租税公課) では基幹産業である「製造業」が 50.4%と過半を占めており、次いで「医療、福祉」の 14.6%、「卸売業、小売業」の 8.4%が続いている。

また、平成 27年 (2015) の国勢調査によると、15歳以上就業者数のうち第1次産業の就業者数割合は1.2%、第2次産業の就業者数割合は34.8%、第3次産業の就業者数割合は60.6%であり、第2次産業の従業者数割合が全国(25.0%)に比べて高い。

本市は、名古屋市へのアクセス性に優れた地域特性を活かして工業団地の建設を推進するなど、工業集積地としての性格を有している。

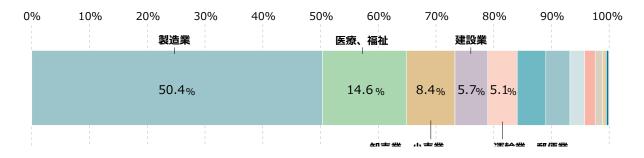


図 13 業種別付加価値の内訳

出典: RESAS 「総務省・経済産業省 『経済センサス-活動調査』再編加工」(2016年)

表 3 産業大分類の就業者数

| | 総数 | | 女 | 構成比 |
|----------------------|----------|---------|----------|--------|
| 総数 | 35,015人 | 20,253人 | 14,762 人 | 100.0% |
| A 農業, 林業 | 415人 | 269人 | 146 人 | 1.2% |
| B 漁業 | _ | _ | _ | _ |
| C 鉱業,採石業,砂利採取業 | 6人 | 5人 | 1人 | 0.0% |
| D 建設業 | 1,970 人 | 1,586人 | 384人 | 5.6% |
| E製造業 | 10,216人 | 7,350 人 | 2,866人 | 29.2% |
| F 電気・ガス・熱供給・水道業 | 136人 | 107人 | 29人 | 0.4% |
| G 情報通信業 | 571人 | 455 人 | 116人 | 1.6% |
| H 運輸業, 郵便業 | 2,440 人 | 1,673人 | 767人 | 7.0% |
| I 卸売業, 小売業 | 4,857人 | 2,334人 | 2,523人 | 13.9% |
| J 金融業,保険業 | 561 人 | 238人 | 323人 | 1.6% |
| K 不動産業, 物品賃貸業 | 438人 | 273 人 | 165人 | 1.3% |
| L 学術研究, 専門・技術サービス業 | 1,088人 | 725人 | 363人 | 3.1% |
| M 宿泊業,飲食サービス業 | 1,762 人 | 595人 | 1,167人 | 5.0% |
| N 生活関連サービス業, 娯楽業 | 1,146 人 | 449人 | 697人 | 3.3% |
| O 教育, 学習支援業 | 1,530人 | 636人 | 894人 | 4.4% |
| P 医療, 福祉 | 3,559人 | 835人 | 2,724 人 | 10.2% |
| Q 複合サービス事業 | 195人 | 109人 | 86 人 | 0.6% |
| R サービス業 (他に分類されないもの) | 1,941 人 | 1,176 人 | 765人 | 5.5% |
| S 公務(他に分類されるものを除く) | 1,011 人 | 715人 | 296人 | 2.9% |
| T 分類不能の産業 | 1,173人 | 723人 | 450 人 | 3.3% |
| (再掲)第1次産業 | 415人 | 269人 | 146人 | 1.2% |
| (再掲)第2次産業 | 12,192 人 | 8,941 人 | 3,251 人 | 34.8% |
| (再掲)第3次産業 | 21,235人 | 10,320人 | 10,915人 | 60.6% |

(3)-2 産業(観光)

本市は、犬山城天守と如庵の2つの国宝をはじめ、国指定史跡の東之宮古墳や青塚古墳、ユネスコ無形文化遺産で国指定重要無形民俗文化財の犬山祭や、350年以上の歴史を誇る木曽川鵜飼、明治時代の建築物を集めた博物館明治村、世界の民族資料を展示する野外民族博物館リトルワールド、尾張二ノ宮の大縣神社など豊富な歴史文化資源があり、まちの中に豊かな歴史や伝統文化が息づく文化観光都市であるとともに、国際会議観光都市に認定されるなど、その価値は広く認知されている。

年間の観光客入込者数は、官民一体となってインバウンド誘致を積極的に展開したこともあり、平成29年度(2017)は600万人に迫るまでに増加した。しかし、令和元年(2019)末から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響によって、人々の往来が断絶され、観光客数は大きく減少した。令和4年(2022)現在は移動制限の緩和などによって観光客数が回復傾向にあるものの、依然として影響が続いている。こうした観光需要の大幅な減少の中にあっても、犬山焼の絵付け体験や座敷鵜飼、茶道体験など歴史文化を体験できる宿泊施設や、インテリアや食、調度品やアートワークなど犬山ならではの歴史・文化・自然などの物語を取り込んだ宿泊施設が開業しており、ポストコロナ時代に向けた観光客誘致の取組が続けられている。

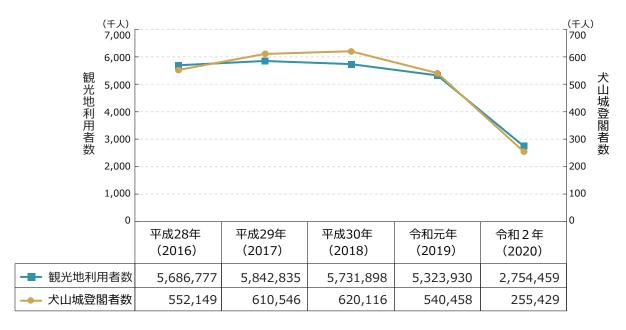


図 14 市内の観光客数推移

出典: 犬山市の統計

(4) 土地利用

本市は、国宝犬山城天守などの歴史文化資源と木曽川・東部丘陵地や里山などの水と緑の豊かな自然環境に恵まれ、それらが特徴的な景観を織りなしている。また、城下町地区や駅周

辺、主要道路沿線には市街地が形成され、地域の特性に合わせて住宅地、工業地、農地などがバランス良く配置されている。本市では、犬山市総合計画において、地域を「生活交流ゾーン」「水と緑の保全・活用ゾーン」「暮らしと自然が調和したコミュニティ形成ゾーン(暮らし・自然調和ゾーン)」に分類し、長期的な視点に立ち、計画的に土地利用を進めていくことにより市民の暮らしを支えるとともに、市域全体において都市的生活の魅力と豊かさの向上を図っている。

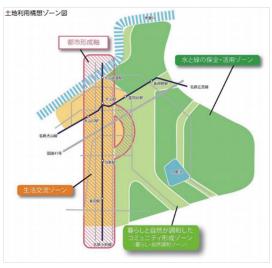


図 15 市内の土地利用イメージ

(5) 交通

交通は広域利便性に優れており、鉄道は市内に7つ(犬山駅、犬山口駅、犬山遊園駅、富岡前駅、 善師野駅、羽黒駅、楽田駅)の駅を有している。名古屋鉄道犬山線・小牧線により名古屋まで 約25分で結ばれるほか、名古屋鉄道各務原線により岐阜市と約30分で結ばれている。また、 国道41号のほか、複数の県道が通っている。加えて、東名・名神高速道路、中央自動車道の インターチェンジなど広域交通網の拠点が隣接しており、名古屋市をはじめ周辺都市との連携 が図られている。また、路線バスが明治村線、リトルワールド・モンキーパーク線が2路線運 行されており、コミュニティバスの8路線が市内のほぼ全域をカバーするように運行している。

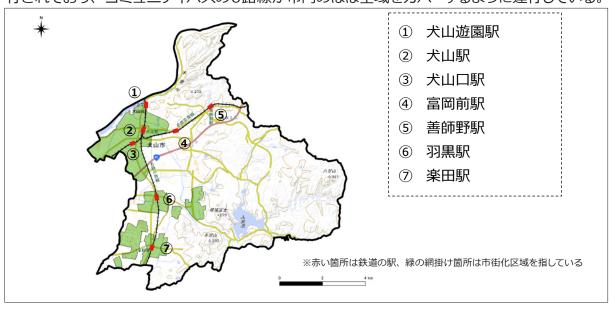


図 16 市内の交通

出典: 国土交通省 地理院地図、国土数値情報を基に作成

(6) 歴史文化施設

市内の歴史文化資源を公開・展示する施設を歴史文化施設と定義する。令和5年(2023) 3 月現在、市内には次の歴史文化施設が開館している。

①犬山城

犬山城は、天文6年(1537)に、織田信長 の叔父である織田信康によって築城されたと伝 えられている。現存する天守は、国宝に指定さ れている。なお、犬山市は国宝犬山城天守及 び史跡犬山城跡の管理団体に指定されている。



犬山城

②文化史料館本館(城とまちミュージアム)

文化史料館本館(城とまちミュージアム) は昭和 62 年(1987) に建築され、平成 24 年(2012) に犬山城と城下町のガイダンス施設としてリニューアルオープンした。

武家文化、町人文化が花ひらいた江戸時代 を中心に、犬山の歴史や文化を展示紹介してい る。館内では江戸時代の犬山城下町を再現し たジオラマなどの常設展示のほか、犬山の歴 史文化の魅力を掘り起こす企画展示を行ってい る。また、展示施設の一部を公益財団法人犬 山城白帝文庫に貸出し、犬山城主成瀬家の所 蔵品の常設展示を行っている。



文化史料館本館

③文化史料館南館 (IMASEN 犬山からくりミュージアム 玉屋庄兵衛工房)

文化史料館南館は令和2年(2020)に、から くり文化の発信拠点として建設され、犬山祭の 山車からくりの古人形や、座敷からくりをはじ めとした、からくり文化にまつわる様々な資料 の展示や、からくり実演を行っている。



文化史料館南館

4中本町まちづくり拠点施設(どんでん館)

中本町まちづくり拠点施設(どんでん館)は 平成12年(2000)に建てられた地域住民によるまちづくり活動の拠点施設である。展示ホールではユネスコ無形文化遺産に登録された犬山祭の13輌の車山のうちの4輌を展示している。また、住民のまちづくり活動を行う交流サロンがある。

どんでん館の名称は、犬山祭の車山が城下町の辻で豪壮に180度方向転換する様を「どんでん」と呼んでおり、そこから名付けられている。



中本町まちづくり拠点施設

5旧磯部家住宅復原施設

旧磯部家住宅復原施設は、幕末から明治初年にかけて建築された建物で、市が平成16年(2004)に用地を購入して建物の寄附を受け、屋根の葺き替えなどの保存を行った。

建物は主屋、裏座敷、土蔵、奥土蔵、展示蔵の5棟から成り、いずれも国の登録有形文化財となっている。



旧磯部家住宅復原施設

6旧堀部家住宅

旧堀部家住宅は、犬山城下町に残る唯一の 武家風住宅である。平成21年(2009)に公有 化し、修理工事を行い、平成24年度(2012) から一般公開を行っている。主屋、高塀、 離座敷、渡り廊、土蔵、旧貸家から成り、主 屋のつくりや建物の配置などに武家住宅の面 影が残っており、これらの建物はいずれも国の登 録有形文化財となっている。



旧堀部家住宅

⑦旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設(小弓の庄)

旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設(小弓の庄)は、地元の吉野利左衛門が明治40年代に「加 茂郡銀行羽黒支店」として建築し、大正11年(1922)に「東濃銀行」に改称され、昭和3

年(1928)には大垣共立銀行の支店となった。 その後、昭和5年(1930)に羽黒支店は廃止 されたため、翌年の3月から個人所有の住宅 として使用されていたが、所有者の解体意向を 機に、犬山市歴史的建造物保存審査会での「地 域の文化材として保存活用すべき」という答申 を受け、平成 11年 (1999) に貸館機能を備え た羽黒のまちづくり拠点施設として復原した。 平成 25年(2013)には国の登録有形文化財と なっている。



旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設

⑧犬山里山学センター、環境保全ボラン ティアセンター

犬山里山学センターは、展示、体験を通して 里山に触れ、森が里山にとってどれだけ大切か、 里山が人々にとってどれだけ大切な存在である かを考え、学び、知り、文化、伝統が未来に 社会に対して活かして行ける「価値 | を発見で きる場所となっている。



犬山里山学センタ-

⑨青塚古墳史跡公園・青塚古墳ガイダンス施設

青塚古墳史跡公園は、古墳の保存・活用を目的に史跡公園として周辺を整備し、平成12年 (2000) にオープンした。公園内にはガイダンス施設があり、国の史跡に指定されている青塚 古墳(愛知県で2番目に大きい全長 123 メートルの前方後円墳)には、復元した壺形埴輪をめ

ぐらせ、古墳の周囲には芝生広場があり、散策・ 憩いの場として楽しめる。ガイダンス施設では、 青塚古墳をはじめとする市内の遺跡の出土品 を展示公開している。また、施設では、様々な 事業や企画を実施しており、学芸員による案内 や解説を聞くことができる。



青塚古墳ガイダンス施設

⑩博物館明治村

博物館明治村は、明治建築を保存展示する野外博物館として、入鹿池に面した美しい風景 の丘陵地に昭和40年に開村した。これまでに移築・復原した建造物の数は現在60を超え、 建造物では11件が国の重要文化財、1件が愛知県の有形文化財、歴史資料では、2件が国の

重要文化財に指定され、そのほか、ほとんど の建造物が国の有形登録文化財である。移築 した建造物は文化財としての価値が最もよく発 揮されるように配置され、周囲の苑路や庭園、 植樹などを配慮して村の環境を創作している。 それぞれの建築は室内に家具調度などを陳列し て公開するだけでなく、その建物に関連する資 料や明治時代の歴史資料の展示も行っている。 管理運営は公益財団法人博物館明治村である。



①日本モンキーセンター

日本モンキーセンターは、サル類の総合的研究、野生ニホンザルの保護などを目的に、昭 和 31 年 (1956) に財団法人として設立された。平成 26 年 (2014) に公益財団法人となり、「霊 長類に関する調査研究を基盤に、その保護と生息地の保全を行い、社会教育・普及活動や図

書などの刊行、標本などの資試料の収集、さ らには福祉に配慮した動物園の設置及び経営 などを通じて、学術・教育・文化の発展及び地 域社会の調和ある共存に資すること(定款よ り)」を目的とした活動を行っている。

附属世界サル類動物園では、サル類の特徴 を活かした展示、たくさんのガイドやイベント、 キュレーターによる博物館活動を行っている。

管理運営は公益財団法人日本モンキーセン ターである。



日本モンキーセンター

表 4 各施設の状況

| | | | 年度別入館者数 (人) | | | | | | |
|----|---|--------------------|----------------|----------------|----------------|--|--|--|--|
| 番号 | 名称 | 所在地 | 令和元年 (2019) | 令和2年 (2020) | 令和3年 (2021) | | | | |
| 1 | 犬山城 | 大字犬山字 北古券 65-2 | 540,458 | 255,429 | 298,707 | | | | |
| 2 | 文化史料館本館 (城とまちミュージアム) | 大字犬山字 北古券 8 | | | | | | | |
| 3 | 文化史料館南館 (IMASEN 犬山からくりミュージアム 玉屋庄兵衛工房) | 大字犬山字 北古券8 | 88,439 | 28,866 | 33,646 | | | | |
| 4 | 中本町まちづくり拠点施設 (どんでん館) | 大字犬山字 東古券 62 | 52,343 | 19,057 | 24,806 | | | | |
| 5 | 旧磯部家住宅復原施設 | 大字犬山字 東古券 72 | 1,187,220 | 60,791 | 72,558 | | | | |
| 6 | 旧堀部家住宅 | 大字犬山字 南古券 272 | 4,170 | 2,313 | 4,252 | | | | |
| 7 | 旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設 (小弓の庄) | 大字羽黒字 古市場 53-1 | 5,266 | 3,108 | 3,242 | | | | |
| 8 | 犬山里山学センター | 大字塔野地字 大畔 364-2 | 6,904 | 4,137 | 5,046 | | | | |
| 9 | 青塚古墳史跡公園 青塚古墳ガイダンス施設 | 字青塚 22-3 | 16,064 | 10,960 | 12,214 | | | | |
| 10 | 博物館明治村 | 字内山 1 | 517,363 | 304,061 | 365,540 | | | | |
| 11 | 日本モンキーセンター | 大字犬山字官 林 26 | 108,030 | 67,947 | 83,570 | | | | |

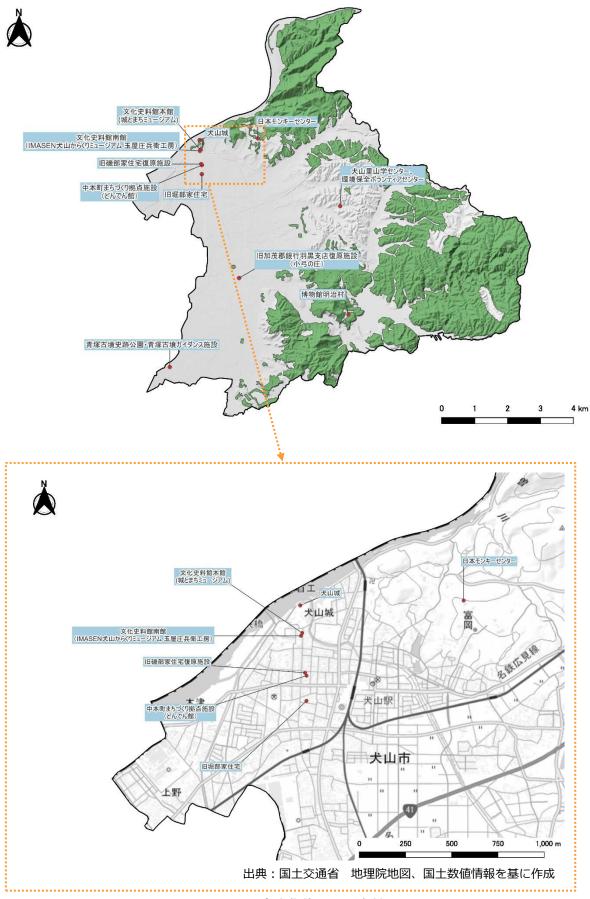


図 17 歴史文化施設の所在地

3. 犬山市の歴史的環境

(1) 旧石器~古墳

【水とともに歩んだくらし】

犬山では、木曽川によって運ばれた砂や礫の堆積した扇状地が広がっており、縄文・弥生時代に小集落が生まれた。犬山市域では、尾張最古の部類に入る斜刃器や握斧状の石器が発見されており、入鹿池の付近は礫の多い地層を成し、旧石器時代から弥生時代にかけての土器や石器が池周辺の至るところに散布している。また、羽黒の北屋敷遺跡は、洪積世の段丘縁辺に所在し、掻器や石刃、削器、彫刻刀、尖頭器などが出土している。石器の剥離技術から見ると、旧石器文化の終わり頃の遺跡として把握される。木曽川の河岸段丘にある材木町遺跡は、北屋敷遺跡よりやや新しい遺跡である。田口洞遺跡は塔野地に所在する遺跡であり、この遺跡は西側斜面の尾根付近から愛知用水の堤防までに広がっている。このように、市内では、旧石器時代の生活の跡が数多く見られる。

縄文時代の生活の跡として、犬山市域で唯一の縄文時代早期の遺跡である上野遺跡が所在しており、犬山扇状地の扇頂部から段丘下までの広範な地域でその跡が見られる。弥生時代になると、生活の基盤は狩猟から農耕へと移りつつあったが、犬山扇状地の扇頂部にあった上野遺跡は低湿地に恵まれず、常に木曽川の洪水にさらされる危険が絶えない位置にあったため、狩猟や漁労・採集にも多く依存していたことが分かる。また、扇状地形に立地する遺跡は微高地であったため大規模な集落は構成されず、洪水の害を受けない安全な場所に2~3戸のまとまった家の痕跡が見られる。住居跡からは貯蔵穴や炉跡が検出されている。

弥生時代後期になると、集落の拡大が見られ、自然をうまく利用すると同時に、土地環境に働きかけて可耕地を有効に活用するようになった。四郎丸遺跡・国正遺跡・青塚南遺跡・木津遺跡など、犬山市域から扶桑町・大口町にかけて弥生時代後期の遺跡数が急増したが、扇状地としての制約から、大集落になることはなかった。

三世紀後半になると、前期古墳として東之宮 古墳が築造されたほか、これに続く形で青塚 古墳や妙感寺古墳、甲塚古墳、城屋敷古墳、 左近塚古墳等の前方後円墳が築造された。こ れら古墳は、ムラの有力者の権威を示すもので あり、農耕を営む集落がこの周辺に造られていたことを物語っている。



妙感寺古墳

【畿内政権との関わり】

大王(現在の天皇)を中心に中央集権体制が確立されると、畿内政権の支配が強まった。それに伴い屯倉が設置され、人・土地・建物が政権の直轄地として位置付けられた。尾張にはいるかのみやで、入鹿屯倉が設置され、正確な場所は把握されていないものの、入鹿池周辺がその対象とされている。この屯倉は、畿内政権の勢力範囲が美濃・尾張・伊勢の三国と密接な関係であったことを物語っている。

このことから、木曽川の扇状地である犬山及びその周辺地域は『続日本後紀』などに記載される「邇波県」の存在と密接に関係する古代「邇波」地域であると推定される。

(2) 古代~中世

【「犬山」の成り立ち】

律令制が敷かれた頃には、「国・郡・里制」とよばれる行政区画がつくられ、中央集権体制が進んだ。犬山市域は尾張国丹羽郡に編成され、市内に残る「西三条」、「東三条」の地名は、律令制下における条里制の名残とされる。小弓荘は、藤原道長が建立した法成寺に良峰季光が寄進して成立したとされる。羽黒地内には当時の地方行政の末端組織である「郷」として、市内で唯一確認できる小弓郷が成立しており、この地は後に丹羽郡司を代々務めた椋橋氏から藤原道長に寄進された。これが荘園「小弓荘」となり、さらには近衛家に相伝されたことから、建長5年(1253)の近衛家所領目録にも、その記述が見られる。

11世紀前半には、市域内の東部丘陵地で焼物が盛んにつくられるようになり、これらの跡は堂ヶ洞古窯や橋爪池古窯からも確認される。また、中世の羽黒では鋳物節集団が活躍し、主として青銅製仏具の鋳造を職業とした技術者集団の根拠地となった。中でも、一宮市妙興寺の鐘は、羽黒金屋の作品の中で最も古いとされている。

犬山の地名は、この頃から使われ始め、美濃の横蔵寺に架蔵されている大般若波羅蜜多経 奥書(永和4年(1378))からも確認できる。文亀3年(1514)には、のちに城下町を形成して いく現市街地も「犬山」と称されるなど、中世の「犬山」は、少なくとも現在の市街地から継鹿尾・ 善師野の丘陵地帯までを含む地名であったことが知られる。この「犬山」の地名は、南北朝期 には定着していった。

【中世犬山と戦国武将】

応仁の乱前後の尾張の争乱では、守護斯波家と守護代織田家に二分され、争乱が 20 年に及んだことで、織田信秀が尾張を統一の機運に向かわせるまでは分裂状態が続いていた。

戦乱期の羽黒地区においては、源平合戦で勇名を馳せた源頼朝の重臣・梶原景時の子孫である梶原茂助景義が、天正 10 年 (1582) に本能寺の変で討死して梶原家が途絶えるまで梶原一族によって治められた。天文6年(1537)に織田信康によって築城されたとされる犬山城は、

本能寺の変における後継者争いから天正 12年 (1584) に豊臣秀吉と徳川家康・織田信雄との 間で「小牧・長久手の戦い」が行われて以降、城主がめまぐるしく変わった。その後、元和3年 (1617) に成瀬正成が城主となってからは、幕末まで成瀬家が代々城主を務めることとなった。

(3) 近世

【成瀬氏による統治】

成瀬氏はもともと三河国足助庄(現豊田市足助町)を本拠地としていたが、同国松平郷(現 豊田市松平町)の松平親氏に仕えたことをきっかけに、徳川氏との関係を築いた。 慶長 15 年 (1610) 成瀬正成は徳川家康より尾張徳川家付家老に命じられ、その後、元和3年(1617) に秀忠の命により犬山城を預けられ、成瀬氏として初代の犬山城主となった。犬山城は、正成 入部後の元和年間に城の整備が行われて以降、代々にわたって改修工事が行われ、4代正幸の 代には、ほぼ城郭が整備されている。また、犬山の城下町は、町の中央部に町人地を置き、武 家町はそれを取り巻くように配置され、町全体を土井や堀で取り囲んでおり、成瀬正成が入部 する以前から、ほぼ、その基本となる形を整えていた。犬山城下町の町割りは、武士と町人と でわかれ、町人地には、鍛冶屋町・魚屋町・鵜飼町などの同一の職業者が集まる町が形成され、 現在もその地名が残されている。

【城下町で発展した産業と祭礼】

犬山城下では、酒造業や紺屋職、製瓦業、鍛冶・刀工などの工業が発展し、また、町ごとに 日を定めて市が開催されたことで、町の繁栄に大きく影響した。犬山焼は元禄年間に起源を持 つ「今井窯」から始まったとされているが、今井焼は天明7年(1787)に廃絶した。その約30 年後の文化7年(1810)には、島屋宗九郎が城下東郊の丸山新田に窯を築き、現在に続く犬山 焼を創業した。その後は経営難や資金不足等に悩まされながらも陶業者によって受け継がれ、 今日では犬山を代表する伝統工芸品として桜・紅葉を描いた雲錦手や、赤絵の手法による絵付 けの花瓶・壺・抹茶茶碗等が人気を博している。

犬山城下町では、寛永 12 年(1635) に針綱神社の祭礼である「犬山祭」が始まったと言わ れている。慶安2年(1649)頃、3代城主成瀬正虎によって車山や練り物を出して祭るように と祭礼が奨励されたため、翌年の慶安3年(1650)には、各町内が車山や練り物を出すようになっ た。祭礼に曳山の類を巡行する祭りの形式は、今日においても全国各地で見受けられ、それぞ れの土地で「鉾」「山車」 「屋台」 「車楽」 などと呼ばれているが、犬山では「車山」 と標記し、「やま」 と言い慣わされている特徴がある。安永年間(1771~1780)には、犬山祭の車山に唐子など のからくり人形が乗り、車山が一層豪華になり始めた。これら車山は、曳山の形態では「屋台」 に属し、さらに人形を有することから「人形屋台」に類別することができる。この形態は、三 層式の屋台の中では起源が最も古いものと言われており、「犬山式人形屋台」と、独立して分 類される場合もある。

そのほか、万治3年(1660)頃には、鵜匠により操られた鵜が、灯された篝火の下で鮎を獲る独特の漁法である「鵜飼漁」が本格化し、近年の観光鵜飼の基となった。

【交通の往来と文化交流】

街道については、元和9年(1623)に完成 した名古屋城下と中山道をつなぐ木曽街道や木 曽川の対岸にある東山道へ内田の渡しで渡河 し、内田、丸山、富岡、善師野を経て美濃に 入るルートがあった。犬山は木曽川を隔てて美 濃に接している地域特性から、往来の人が多 く立ち寄った。それに加え、名古屋方面との交 流も盛んであり、随筆・紀行をはじめ、酒造、 茶の湯、和歌・狂歌など多くの文化が花開いた。



木曽川鵜飼漁法

【治水と利水】

近世の初頭、尾張藩は木曽川の治水とともに水利の確保を図り、耕地の拡張に力を注いだ。 当時の木曽川は現在のように堤防によって本流が固定しておらず、犬山を出ると枝分かれして一 の枝、二の枝、三の枝などと呼ばれる分流支川が尾張地方へ流れ込んでいた。

慶長 12 年 (1607) 徳川義直が尾張に封ぜられると、尾張地方を洪水から守るために、慶長 14 年 (1609) から翌年にかけて、木曽川の分流支川を締め切って尾張側への流入を防ぐ大築 堤工事を行い、犬山から河口まで木曽川の流れを固定した (御囲堤)。

尾張地方東部の台地上の地域における開発構想が生まれ、寛永 5 年 (1628) 江崎善左衛門 らは成瀬隼人正の取り次ぎで尾張藩主に願い出て、寛永 9 年 (1632) に許可を得て入鹿池築造に着手。棚付き工法で堤をつくり、寛永 10 年 (1633) に完成した。

そのほか、犬山は古くから木曽川の水運による恩恵を受けてきた。木曽川の水運の歴史は古く、南北朝時代には木曽の檜材を伊勢神宮の遷宮に利用した記録がある。犬山は近世に入り、材木の中継湊として発展した。



入鹿池

(4) 近代・現代

【明治以降の犬山】

明治元年(1868)に尾張藩から犬山藩が独立し、明治4年(1871)、廃藩置県により犬山藩 は犬山県に改められた。この廃藩置県によってこれまでの藩体制は解体され、犬山県は同年 11月に名古屋県に市域の村々とともに合併されたことで、全て名古屋県の管下に属することと なった。明治維新後には、江戸詰め・名古屋詰めの武士が帰郷して居住した結果、開発可能な 城下町周辺部が宅地化された。明治11年(1878)には地方官会議が開かれ、町村制が敷かれた。 犬山市域の町村制は明治 22 年(1889) に施行され、新しく善師野村、岩田村、今井村、楽田 村、羽黒村、犬山町、岩橋村、高雄村の一町七か村が誕生した。

【観光業の開花】

明治維新以降、主要道路の整備などによる交通の発達と相まって、犬山町は武士の町から商 人の町へと変容し、明治の末頃には、戸数 2,100 余戸、人口 11,000 人を超えるに至った。大 正元年には名古屋電気鉄道株式会社が岩倉経由で名古屋の押切から東一宮間(本線9、犬山 から岩倉間(支線)が開業され、この鉄道敷設が商業活動に一層の活力を与えることとなった。 商業の発達に加えて観光業も発達し、木曽川(日本ライン)が昭和2年(1927)に日本八景に 当選したこともあって観光客が増加したことで商業の更なる振興につながった。

昭和 28 年 (1953) から始まった町村合併は、近代的地方自治行政を必要とする新しい市町 村の発足のための一大変革であり、「町村合併促進法」の施行を契機として各地で合併の機運 が盛り上がった。同年には、犬山町・城東村・羽黒村・楽田村・池野村の五か町村の合併問題 に関する協議が重ねられ、昭和29年(1954)3月に犬山市が誕生した。市制施行当時の市の 面積は74.24 km 、人口は35,995 人であった。

木曽川が名勝に、犬山城天守が国宝に指定 されたことで、全国的にも犬山市が知られるよ うになった。それとともに、明治村の開村や国 宝如庵の移築、野外民族博物館リトルワールド の開館などにより、観光地としての発展が見ら れるようになった。一方、商業の活性化を図る ため、城下町などに残る町家の改修が進み、改 修が進んだ城下町の町家は、その伝統的な意 匠を後世に伝えるためかつての姿に修景され、 城下町の景観が復元されつつある。



リトルワールド

(5) 犬山の災害史

【風水害】

犬山では、古くから大雨により木曽川が氾濫し、被害を受けてきた。天正 14 年 (1586) の 大洪水では、木曽川の河道が現在のように変化するなどの大きな被害が生じている。尾張藩で は、木曽川の分流支川を締め切り、尾張地方を洪水から守るために慶長 14 年 (1609) から翌 年にかけて築堤工事 (御囲堤)を実施している。御囲堤完成後も、貞享 4 年 (1687)、明治 6 年 (1873)に大洪水が発生しており、これが「やろか水」という伝承として伝わっている。犬 山で発生した水害のうち、一番被害の大きなものは明治元年 (1868)の長雨による入鹿池の 決壊「入鹿切れ」である。入鹿池から流れ出た濁水は周辺の 62 か村を飲み込み、死者 941 人、 負傷者 1,471 人、流失家屋 807 戸、浸水家屋 11,709 戸の未曽有の被害が生じている。昭和 34 年 (1959)には東海地方を襲った伊勢湾台風により市内でも死傷者や倒壊家屋が出る等大 きな被害が発生している。平成 12 年 (2000)に東海地方の広い範囲で被害が発生した東海豪 雨等、近年の記録的集中豪雨による被害も発生している。

【地震】

これまで、大きな被害を受けた地震としては、明治 24 年 (1891) に発生した濃尾地震がある。 この地震により、旧犬山町では、死者 29 人、負傷者 56 人、全壊家屋 356 戸、半壊家屋 342 戸など、大きな被害が発生している。また、この地震により犬山城の石垣が崩壊し、犬山城天 守の壁が崩れ落ちるなどの被害が発生している。

【火災】

犬山城下町は、幾度となく火災による被害を受けている。天保 13 年 (1842) に余坂村からの失火による火災では、町家だけでなく武士の屋敷地や町奉行所、犬山城櫓まで類焼するなどの大きな被害が発生している。

表 5 犬山市の年表

| | ————————————————————————————————————— | |
|--------|---------------------------------------|---|
| 西暦 | 年号 | できごと |
| BC.100 | 弥生中期 | ・小集落が数箇所に散在し、住居に貯蔵穴や炉を持つ(上野遺跡) |
| 45.000 | 垂仁 27 | ・大縣神社が本宮山より現在地に遷座(社伝) |
| AD.300 | 古墳前期 | ・前方後円(前方後方)墳が丘陵の尾根や先端部に築造される(東之宮古墳) |
| | | ・前方後円(前方後方) 墳が、台地の末端部や平野部に築造される(青塚古墳、妙感寺古墳等) |
| 729 | 天平 元 | ・大宮浅間神社が創建される(社伝) |
| 990 | 正暦年中 | ・小弓荘が成立 |
| 1143 | 康治 2 | ・これより以前、大縣神社が尾張二宮となる |
| 1378 | | |
| 1446 | | ・文安3年この年以降、「犬山荘」「犬山郷」と史料に散見する |
| 1469 | | ・この頃、織田広近が木之下城を築城 |
| 1504 | 永正 元 | ・この頃、楽田城築城 |
| 1537 | 天文 6 | ・この頃、織田信康が木之下城を城山に移す |
| 1544 | 16 | ・織田信清、犬山城主となる |
| 1565 | 永禄 8 | ・織田信清、信長に犬山城を攻められ、犬山城落城 |
| 1584 | 天正 12 | ・小牧・長久手の戦い |
| | | ・加藤光泰、犬山城を預かる(このとき、羽黒城に山内一豊、楽田城に堀秀政、小口城に |
| | | 稲葉一鉄) |
| 1592 | + + + | ・秀吉、信雄に犬山城を返還 |
| 1592 | 文禄 元 | ・この頃、犬山の刀鍛冶が活躍 |
| 1607 | 8 | ・この頃、「木曽川」の呼び名が一般的となる ・針綱神社、白山平から名栗町に遷座 |
| 1611 | 慶長 12 | ・町神性は、日田平がら石米町に彦座 ・犬山の刀工兼武、奉納太刀(熱田神宮)を打つ |
| 1612 | 17 | ・大山の分上来は、挙納なり(熱山神呂)を打り ・犬山の鋳物師彦六郎、二ノ宮の鐘を鋳造 |
| 1613 | 18 | ・大山の野物師を八郎、二ノ宮の踵を野追 ・鋳物師彦六郎、天道宮(入鹿村) の鐘を鋳造 |
| 1616 | | ・一時では、大道古(大郎村)の鍵を跨道 ・神戸家、飛騨山林からの材木仕出しを始める |
| 1617 | 3 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 1623 | 9 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 1624 | 寛永 元 | ・我国、不自国国(工国道)を開く ・この頃、神戸家、木曽山林からの材木仕出しを行う |
| 1024 | 見小儿 | ・正虎、寛永年間(~1644)、犬山(稲置)街道を開く |
| 1633 | 10 | ・入鹿池完成 |
| 1635 | 12 | ・犬山祭が始まる |
| 1000 | 12 | ・天道宮、虫鹿神社、入鹿池築造により前原に遷座 |
| 1660 | 万治 3 | ・この頃、犬山の鵜飼が本格的となる |
| 1689 | 元禄 2 | ・犬山祭に傘鉾が出始める |
| 1691 | 4 | ・犬山祭、閏祭を行うようになる |
| 1742 | 寛保 2 | ・練屋町のからくり「文殊菩薩人形」を名古屋矢場町の甚四郎がつくる |
| 1768 | | ・この頃から、犬山鵜飼が衰退 |
| 1774 | 安永 3 | ・魚屋町の、乱杭渡り唐子を、名古屋の人形師竹田藤吉がつくる |
| 1775 | 4 | ・下本町の、唐子の大人形の肩に小人形が乗るからくりを文吉離三がつくる |
| 1776 | 5 | ・中本町のからくり「西王母唐子遊び綾渡り」を、竹田藤吉がつくる |
| 1809 | 文化 6 | ・正典、鵜匠を犬山から追放 |
| 1810 | 7 | ・島屋宗九郎、丸山新田に窯を築き、犬山焼(丸山窯)を再興 |
| 1831 | 天保 2 | ・加藤清蔵、犬山焼丸山窯の窯主となり、松原惣兵衛(水野吉平)と赤絵の焼成を始める |
| | | ・この年、犬山祭の車山 13 両が揃う |
| 1835 | 6 | ・絵工道平、犬山焼絵付け(呉須赤絵)に活躍する |
| 1866 | 慶応 2 | ・尾関作十郎信業、犬山焼の再生に尽力 |
| 1868 | 明治 元 | ・犬山藩 (3万5千石) 成立 |
| | | ・「入鹿切れ」 |
| 1869 | 2 | ・名栗町のからくり人形を名古屋の人形師土井新三郎が製作 |
| 1870 | 3 | ・犬山藩支配地の戸数 11,782 戸・人口 53,302 人 (士族 1,364 人、卒族 1,073 人) |
| 1871 | 4 | ・廃藩置県により犬山藩を犬山県とする |
| | | ・犬山県、名古屋県に合併 |
| 1873 | 6 | ・太政官達により、犬山城が廃城となる |
| 1882 | 15 | ・針綱神社を現在地に遷座 |
| 1889 | 22 | ・町村制により、市域に犬山町・岩橋村・善師野村・岩田村・今井村・羽黒村・楽田村・高 |
| | | 雄村の1町7村が誕生 |

| 西暦 | 年号 | できごと |
|--------------|--|--|
| 1891 | 24 | ・郡制により、丹羽・葉栗郡がそれぞれ独立、犬山市域は丹羽郡に属す |
| | | ・濃尾地震発生 |
| 1895 | 28 | ・犬山城、愛知県より旧犬山藩主成瀬正肥へ条件付で無償譲与 |
| 1899 | 32 | ・鵜飼鎌次郎、犬山鵜飼を再興 |
| 1902 | 35 | ・犬山水産会社を設立、観光鵜飼始まる |
| 1906 | 39 | ・市域の町村が犬山町、城東・羽黒・楽田・池野各村の1町4村となる(昭和29年まで続く) |
| 1912 | 大正 元 | ・名古屋電気鉄道株式会社、岩倉経由で名古屋の押切~東一宮(本線)・犬山~岩倉間(|
| 1012 | | 支線)開業 |
| 1913 1914 | 2 3 | ・志賀重昂、「日本ライン」命名 ・犬山通船株式会社設立、ライン下りを開業 |
| 1917 | 6 | ・大田畑船株式芸社設立、プインドリで開業・・東部丘陵地の縁辺で、かんがい溜池利用 130 余池 |
| 1918 | 7 | ・大縣神社、国幣中社に昇格 |
| 1923 | 12 | ・「ヒトツバタゴ自生地」、国の天然記念物に指定 |
| 1925 | 14 | ・名古屋鉄道、今渡線(犬山口~今渡)開通 |
| | | ・名古屋鉄道、犬山遊園地を開園 |
| | | ・犬山橋竣工、これにより「内田渡し」は廃止 |
| 1926 | 昭和 元 | ・名古屋鉄道、犬山〜犬山橋間開通 |
| | | ・名古屋鉄道、犬山橋〜新鵜沼間開通 |
| 1927 | 2 | ・犬山駅、現在地に移転 |
| | | ・木曽川(日本ライン)が日本八景に当選 |
| 1929 | 4 | ・名古屋鉄道、今渡~広見間開通。これにより、犬山口~広見間が直通となり、東濃鉄道(広 |
| 4000 | _ | 見〜御嵩)と接続 |
| 1930 | 5 | ・桃太郎神社創建 |
| 1931 1935 | 6 | ・「木曽川」国の名勝指定 |
| 1955 | 10 | ・「犬山城天守」、国宝に指定 ・「犬山市」誕生 (合併時人口 35,995 人、市庁舎は旧犬山町役場) |
| 1934 | 29 | ・ 大山 |
| 1956 | 3 1 | ・財団法人日本モンキーセンター設立 |
| 1959 | 34 | ・伊勢湾台風の被害により、「栗栖渡し」廃止 |
| 1961 | 3 6 | ・犬山城の解体修理始まる |
| 1962 | 37 | ・名鉄犬山遊園駅~動物園駅間にモノレール開通 |
| | | ・木曽川周辺地域、「飛騨木曽川国定公園」に指定 |
| 1964 | 39 | ・「犬山祭の山車」、県の有形民俗文化財に指定 |
| | | ・第1回「日本ライン犬山お城まつり」開催 |
| | | ・「犬山鵜飼」が市営となる |
| 1965 | 40 | ・博物館「明治村」開村 |
| 1072 | 4- | ・犬山城修理完工開城式挙行 |
| 1972 | 47 | ・有楽苑に「如庵」と「旧正伝院書院」の移築完工 |
| 1973 1975 | 48 | ・犬山祭山車保存会結成 |
| 1980 | 50 55 | ・「東之宮古墳」、国の史跡に指定 ・第1回「日本ライン犬山夏まつり」開催 |
| 1980 | 56 | ・第1回1ロ本フィン人山夏まフリ」 開催 ・大縣神社 (本殿・祭文殿など)、国の重要文化財に指定 |
| 1983 | 58 | ・「青塚古墳」、国の史跡に指定 |
| 1987 | 62 | ・犬山城築城 450 年記念事業 「キャスティバル犬山」 開催 |
| | 02 | ・犬山市文化史料館開館 |
| 1996 | 平成 8 | ・犬山市文化史料館別館「からくり展示館」開館 |
| 2000 | 12 | ・第1回「犬山お城まつり」開催 |
| | | ・東海豪雨発生 |
| | | ・「青塚古墳史跡公園」開園 |
| 2006 | 18 | ・「犬山祭の車山行事」国の無形民俗文化財に指定 |
| 2008 | 2 0 | ・モノレール廃止 |
| 2012 | 24 | ・「犬山市文化史料館(城とまちミュージアム)」リニューアル |
| 2015 | 27 | ・「入鹿池」世界かんがい施設遺産に登録 |
| 2016 2018 | 28 | ・犬山祭を含む「山・鉾・屋台行事」ユネスコ無形文化遺産に登録 |
| 2018 | 30 令和 元 | ・「大山城跡」国の史跡に指定 ・犬山城天守の保存修理工事完了 |
| 2019 | 令和 元 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | ・大山城大寸の保存修理工事元 ・犬山市文化史料館(南館)開館 |
| 2020 | 3 | · 史跡東之宮古墳整備完了 |
| 2021 | 4 | ・ヒトツバタゴ自生地公有化 |
| | _ т | (1) (1) 日本心がらに |



第2章

大山市の歴史文化資源 の概要

- 1. 指定等文化財の概要
- 2. 指定等以外の歴史文化資源 の概要

1. 指定等文化財の概要

本市の指定等文化財件数は、令和4年度(2022) 末時点で221件であり、指定の内訳は国 指定25件、県指定7件、市指定38件、国登録151件である。

種類別では、有形文化財が206件と最も多く、次いで記念物の10件、民俗文化財4件、うち、 無形文化財1件である。文化的景観・伝統的建造物群の選定はされていない。

| | | 有形文化財 | | | | | | | 形比財 | 民俗 文化財 | | 記念物 | | | | | 文化 | 伝統 | |
|-----|-----|-------|----|-----|-------|------|------|------|-------------|-----------|----|-----|-----|----|----|----|-----|---------|-----|
| | | | 美術 | 訂工芸 | 芸品 | | | 民 | 民工 | | 無形 | 遺跡 | 名 | 動物 | 植物 | 鉱物 | 的景観 |)。 | 合 |
| | 建造物 | 絵画 | 彫刻 | 工芸品 | 書跡・典籍 | 考古資料 | 歴史資料 | 民俗芸能 | 上芸技術 | 有形 | 形 | 跡 | 名勝地 | 初 | 物 | 物 | 観 | 伝統的建造物群 | 計 |
| 国指定 | 15 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 小計 | | | | 19 | | | | 0 0 | | 1 | | 5 | | | | U | U | 23 | |
| 県指定 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | _ | _ | 7 |
| 小計 | | | | 5 | | | | U | 0 | : | 1 | | | 1 | | | _ | _ | ' |
| 市指定 | 0 | 13 | 5 | 13 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 38 |
| 小計 | | | | 31 | | | | 1 | 1 0 | | 2 | | 4 | | | | U | U | 36 |
| 国登録 | 151 | 151 0 | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 0 | | | - | - | 151 | |
| 合計 | 206 | | | | | | | 1 | 0 | 4 | 1 | | | 10 | | | 0 | 0 | 221 |

表 6 犬山市指定等文化財一覧表 (令和5年3月末日現在)

指定等文化財は、犬山地区、次いで池野地区に多く分布する。犬山地区には、全体の 56% の指定等文化財が所在する。これは木曽川が濃尾平野に流れ出る犬山扇状地で古くから人々の営みが始まり、木曽川を活かし、交通や物流、政治の要所として町が発展していく中で多種多様な文化財が生まれたことが理由として挙げられる。池野地区には全体の 32%の指定等文化財が所在する。これは、公益財団法人博物館明治村が市内全体の指定等文化財の 32%を所有することが要因である。

指定等文化財の特徴としては、歴史的建造物が多く、全体の76%を占める。これは、犬山城下町に寺院や町家が集中していることと、先に記した公益財団法人博物館明治村に全国から移築保存した明治時代の建築物が多いためである。次に多い文化財は美術工芸品である。これは、犬山城下町に古くから立地する寺院が所持する絵画、公益財団法人犬山城白帝文庫が所持する成瀬氏とのゆかりの深い工芸品、犬山の伝統工芸である犬山焼に関連するものが多い。

このほかにも、犬山祭や、犬山城跡、東之宮古墳、青塚古墳等の史跡、大字栗栖から大字 木津にかけて広い範囲で指定される名勝木曽川、天然記念物ヒトツバタゴ自生地など多様な文 化財がある。

(1) 有形文化財

1) 建造物

市内には指定等文化財が168件所在する。当市を代表する建築物としては、「犬山城天守 (国宝)」と「如庵(国宝)」が挙げられる。犬山城天守の建築時期は諸説あるが、近年、年 輪年代法による年代測定調査を行うとともに、建物全体に及ぶ変遷過程について検証し、現 存最古の天守であると発表した。如庵は国宝三名席の1つで元和4年(1618)に織田信長の 弟・織田有楽斎によって京都の建仁寺の塔頭である「正伝院」が再興された際に書院(現・ 「旧正伝院書院」)とともに築造した茶室である。これまで、京都から東京、神奈川、犬山へ と移築され、現在に至っている。

寺社建築では、尾張地方の神社に見られる尾張造(本殿(後)、祭文殿(中)、拝殿(前)を 回廊で繋いだ左右対称の建築様式)で建造された「大縣神社(尾張二ノ宮)」の「本殿・祭文殿・ 拝殿(重要文化財)」、入鹿池の築造に際し、寛永 10 年(1633) に現在地に移されたと言われ

ている 「天道宮神明社楼門 (県指定)」、犬山城 下町にある寺院などがある。住宅建築は、「旧 磯部家住宅(国登録)」、「旧堀部家住宅(国登録)」 など犬山城下町を中心に、江戸末期から昭和 初期に建てられた町家が登録有形文化財建造 物となっている。

近代建築は、博物館明治村に全国から移築・ 展示された建造物(指定12件、登録56件) である。



犬山城 (天守)

2) 絵画

市内には指定等文化財が14件所在する。大半は社寺が所有するものであり、信仰の対象 や所縁のある武将の肖像などが描かれている。また、このほかにも、公益財団法人犬山城白 帝文庫が所有する天正3年(1575) 5月21日、設楽原(新城市)において織田信長・徳川家 康連合軍と武田勝頼軍の決戦の様子と、天正 12年(1584)、徳川家康・織田信雄と羽柴秀吉

の間で天下の覇権をかけた合戦の様子を描いた 「長篠・長久手合戦図(市指定)」、大正から昭 和にかけて活躍した大正広重と呼ばれた鳥瞰図 絵師である吉田初三郎が描いた「継鹿尾山図(市 指定)」などがある。



継鹿尾山図

3) 彫刻

市内には指定等文化財が6件所在する。その全ては社寺が所有する仏像彫刻である。時代の古いものでは天平6年(734)に行基が開山したといわれている青龍山薬師寺の本尊である「木造薬師如来坐像(重要文化財)」がある。このほかにも、中世につくられた大泉寺の「懸け仏(市指定)」、東海地方に多く見られる仏師円空が作成した「円空仏(市指定)」がある。

4) 工芸品

市内には指定等文化財が16件所在する。公益財団法人犬山城白帝文庫が所蔵する「短刀(銘左安吉作 正平十二年二月日)(重要文化財)」や小牧・長久手合戦の際に羽柴秀吉が持参したと伝わる「菊桐紋蒔絵鎧櫃・菊桐紋蒔絵風呂道具(ともに県指定)」など犬山城、成瀬家とゆかりの深い金工品・木工品がある。また、文化7年(1810)に始まった伝統工芸品の「犬山焼(市指定)」がある。

5) 歴史資料

市内には指定等文化財が2件所在する。公益財団法人明治村が所蔵する日本の近代化に大きく貢献した「リング精紡機(重要文化財)」や「ゐのくち渦巻ポンプ(重要文化財)」がある。なお、このほかに、岩手県が所有し、明治村が管理する「菊花御紋章付平削盤(重要文化財)」がある。

(2)無形文化財

1) 民俗芸能

市内には指定等文化財が1件所在する。江戸後期から伝わる獅子芝居である「塔野地獅子舞 (市指定)」がある(現在は活動休止中)。

(3) 民俗文化財

1) 有形の民俗文化財 犬山祭の山車(十三台)

市内には指定等文化財が1件所在する。「犬 山祭の山車(県指定)」は、毎年4月第1土・日 に曳行される。車山(犬山では「山車」を「車 山」と標記し、「やま」と言い習わされている) は13台あり、すべてにからくり人形が搭載さ れている。



2)無形の民俗文化財

市内には指定等文化財が3件所在する。毎 年4月第1土・日に犬山城下の針綱神社の例祭 として執り行われる「犬山祭の車山行事(重要 無形民俗文化財)」がある。犬山祭は寛永 12 年(1635)から始まり、現在まで引き継がれ ている。犬山城下13町内から出される車山や 3町内から出される練り物で構成される。犬 山祭の車山行事は平成28年(2016)に全国 33件の「山・鉾・屋台行事」の1つとして、ユ ネスコ無形文化遺産に登録されている。また、 元和4年(1618) に尾張藩初代藩主 徳川義直 が犬山にお成りした際に見たと記録されている 「木曽川犬山鵜飼漁法(市指定)」、真夏に標高 275mの尾張冨士の頂上まで巨石を担いで登る 「石上げ祭(市指定)」がある。



(4) 記念物

1) 遺跡

市内には指定等文化財が8件所在する。古墳は尾張地域を代表する3世紀後半から4世紀は じめにつくられた「東之宮古墳(国指定)」、4世紀中頃につくられた「青塚古墳(国指定)」、5 世紀前半に造られた「妙感寺古墳(県指定)」がある。東之宮古墳や青塚古墳については、調 査・整備が行われ、古墳学習の場として利用されている。城跡については、「犬山城跡(国指定)」

がある。犬山城跡は、国宝犬山城天守がある城山全体が含まれており、犬山市が管理団体として調査・整備を進めている。また、犬山城の前身となった「木ノ下城跡(市指定)」がある。また、このほかに、旧稲木神社跡地である「田中天神跡(市指定)」、犬山焼の「絵工道平の墓(市指定)」、八代城主の成瀬正住が創設した「敬道館跡(市指定)」がある。



青塚古墳

2) 名勝地

市内には指定等文化財が1件所在する。長野県の鉢盛山を水源とする一級河川であり、市内の北部を流れる「木曽川(国指定)」が名勝に指定されている。木曽川の沿岸風景はヨーロッ

パ中部を流れるライン川の絶景に似ていることから、大正2年(1913)に志賀重昂が日本ラインと命名し、その風致景観の優秀さと学術的価値の高さから、岐阜県可児市から犬山市までの広大な範囲が指定地となっている。



木曽川

3) 動物・植物

市内には指定等文化財が1件所在する。池野地区に所在する「ヒトツバタゴ自生地(国指定)」である。ヒトツバタゴ自生地は木曽川中流域と対馬に分布し、集団での自生は非常に珍しい。このほか市内には、地域を定めない天然記念物として「オオサンショウウオ(特別天然記念物)」、「二ホンカモシカ(特別天然記念物)」などが生息する。



ヒトツバタゴ

2. 指定等以外の歴史文化資源の概要

既往調査や文献などにより把握された指定等文化財を除いた歴史文化資源は、令和4年 (2022) 3月末時点で 2,337 件である。

種類・分類を見ると、有形文化財が1,687件と最も多く、うち1,421件(84.2%)を美術 工芸品が占める。美術工芸品のうち、工芸品(648件)、絵画(292件)、彫刻(170件)が多 数を占める。

これについては、平成 24 年度(2012)及び平成 25 年度(2013)に実施した悉皆調査の成 果から、507件の歴史文化資源の把握が行われている。

また、本計画作成に伴い実施した、市民アンケート調査や団体アンケート調査、団体ヒアリ ング、現地確認調査により新たに93件の歴史文化資源が把握できている。

これら歴史文化資源については、所在位置を分かりやすくするために小学校区別で整理した。 小学校区別では、犬山北小学校区が397件と最も多く、特に工芸品の件数が多い。次いで、 楽田小学校区、城東小学校区、池野小学校区が続く。市内のいずれの地区においても、多様 な歴史文化資源が多数所在している状況である。

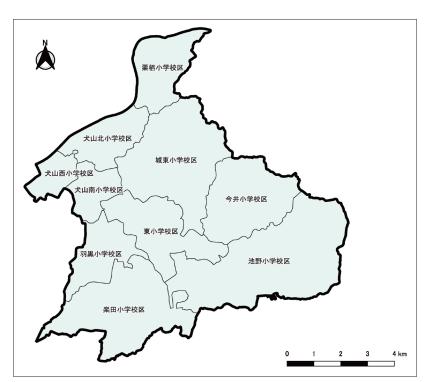


図 18 犬山市の小学校区

参考:犬山市ホームページを基に作成

表 7 指定等文化財を除いた歴史文化資源の件数一覧

| 文化財種別 | 件数 |
|--|-----------|
| 有形文化財 (建造物) | 266 件 |
| 有形文化財 (絵画) | 292件 |
| 有形文化財 (彫刻) | 170 件 |
| 有形文化財 (工芸品) | 648 件 |
| 有形文化財 (書跡典籍) | 44 件 |
| 有形文化財 (古文書) | 2件 |
| 有形文化財 (考古資料) | 121件 |
| 有形文化財 (歴史資料) | 144 件 |
| 無形文化財(演劇・音楽・工芸技術等) | 4 件 |
| 有形の民俗文化財 | 46 件 |
| 無形の民俗文化財 (風俗慣習) | 64 件 |
| 無形の民俗文化財 (民俗芸能) | 7件 |
| 無形の民俗文化財 (民俗技術) | 2件 |
| 記念物(遺跡) ※かっこ内の数値は、記念物(遺跡) のうち埋蔵文化財包蔵地の件数 | 256件(92件) |
| 記念物 (名勝地) | 22 件 |
| 記念物 (天然記念物 _ 動物) | 56 件 |
| 記念物 (天然記念物 _ 植物) | 98 件 |
| 記念物 (天然記念物 _ 地質鉱物) | 12件 |
| 文化的景観 | 29 件 |
| 伝統的建造物群 | 1件 |
| 文化財の保存技術 | 0 件 |
| 自然環境 | 24 件 |
| 伝承・物語 (民話含む) | 1件 |
| 伝統産業・地場産業 | 10 件 |
| 歴史的に継承されてきた音や香り、古くからの地名、方言など | 18 件 |
| 総計 | 2,337件 |

| 小学校区 | 件数 |
|---------|---------|
| 栗栖小学校区 | 39 件 |
| 犬山北小学校区 | 397件 |
| 犬山西小学校区 | 51件 |
| 犬山南小学校区 | 86 件 |
| 城東小学校区 | 138 件 |
| 東小学校区 | 68 件 |
| 羽黒小学校区 | 88 件 |
| 楽田小学校区 | 148 件 |
| 今井小学校区 | 50 件 |
| 池野小学校区 | 118 件 |
| 犬山市全域 | 86 件 |
| 所在未特定 | 1,068 件 |
| 総計 | 2,337件 |

[※]文献に所在地が記載されていない、もしくは所在地が広範にわたっており特定できない等の理由により小学校区を定められなかったものは「所在未特定」としている。

(1) 有形文化財

1) 建造物

建造物は 266 件あり、針綱神社や尾張冨士大宮浅間神社をはじめとする神社の本殿等や、

瑞泉寺と塔頭群、犬山城下町の寺院の本堂(堂 宇)、城下町の加藤家住宅や松山家住宅をはじ めとする歴史的風致形成建造物が14件(登録 有形文化財を除く) ある。このほかに、大正 14年(1925) に造られた三連トラス橋の鉄道 橋犬山橋など犬山の観光を支えてきた工作物 もみられる。



2) 美術工芸品

美術工芸品は 1,421 件ある。

彫刻は170件あり、白雉5年(654年)に 創建されたといわれる寂光院や城下町に位置 する寺院等の本尊、木曽街道や稲置街道沿い で人々の往来を見守ってきた馬頭観音などの石 造仏がある。このほかに、市内各地にみられ る山神や水神の石碑、浅野祥雲が作成した桃 太郎神社や成田山のコンクリート像など多くの 石造物などがある。

絵画は 292 件あり、大半は社寺が所有する もので、阿弥陀如来や涅槃図など信仰の対象 となる者が描かれている。また、次いで公益財 団法人犬山城白帝文庫が所持するものが多く、 成瀬正泰(5代)や正典(6代)が描いた絵画、 寛文8年(1668) 犬山御城当分之絵図や天保 10年(1839) 犬山城下絵図などの犬山城に関 連する絵図が多い。その他には、犬山祭の車 山の運行状況を描いた犬山祭車山図や犬山神 祭古版、郷土の偉人である村瀬太乙が記したも のなどがある。

丁芸品は648件あり、公益財団法人犬山城



馬頭観音(禅徳寺)



三面六臂の馬頭観音

白帝文庫や犬山市文化史料館が所蔵するものが多い。代表的なものとしては、明智光秀の旧 蔵と伝わる「脇指 明智兼光」をはじめとする成瀬家が徳川家から賜った刀類、犬山城下の鍛 冶屋町で作られた刀類、成瀬家に関連する甲冑・羽織・馬具・調度品、犬山市の伝統産業であ る犬山焼がある。

考古資料は121件あり、大半は市が所有するもので、青塚古墳をはじめ、市内の古墳、遺跡、 窯跡などで発掘調査の際に出土したものが多い。代表的なものとしては、旧石器時代では北 屋敷遺跡から見つかった石器、縄文時代では上野遺跡から出土した押型文土器や尾崎遺跡の

縄文式土器、弥生時代では上野遺跡から出土 した土器や磨製石包丁、古墳時代では青塚古 墳から出土した石鏃や円筒・壺形埴輪、白山 神社古墳から出土した鳥形のつまみ付き高坏 などである。

書跡・典籍は44件あり、徳川家や成瀬家、 武田家の書状、寺院の扁額などがある。

歴史資料は144件あり、公益財団法人犬 山城白帝文庫が所持するものが多く、犬山の 歴史を記した犬山里語記や犬山視聞図会、雑 話犬山旧事記をはじめ、各村の高帳・検地帳 覚書などの記録がある。その中には明治元年 (1868) の入鹿切れに関する資料がある。



白山神社古墳出土鳥形のつまみ付高杯

(2)無形文化財

1) 工芸技術

工芸技術は4件あり、慶長2年(1597)に 小島弥次右衛門が創業し、一子相伝の醸造方 法で現在まで続く荵苳酒の醸造技術、伝統工 芸品である犬山焼の製造技術がある。



犬山焼の製作風景

(3) 民俗文化財

1) 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は46件あり、犬山祭 の下山で小太鼓を演奏する子どもたちの衣裳 「金襦袢」をはじめ、二の宮組稚児山、市内各 地で行われる祭礼で使用される道具などがあ る。



2)無形の民俗文化財

無形の民俗文化財のうち祭礼は 26 件あり、江戸中期まで遡るとされている「虫送り」や「だ んだんもうせ」が犬山地区から城東地区にかけて行われている。また、大縣神社の豊年祭や

天道宮神明社の鬼まつりなど、各地で様々な祭 礼が行われている。

風俗慣習は38件あり、地域にもよるが、正 月行事であるヤギトウやお日待ち、どんど焼き (左義長)、お盆行事である棚盆や施餓鬼、オ ショロイ送りなどの慣習が残っている。

民俗芸能は7件あり、大宮浅間神社で行わ れる太々神楽などがある。



(4) 記念物

1) 遺跡

遺跡は256件あり、うち埋蔵文化財包蔵地は92件である。代表的なものとしては、旧石

器時代の遺物の散布地である西山遺跡、縄文 時代から古墳時代にかけての遺物が見られる 上野遺跡がある。

古墳については、古墳時代末期の永洞古墳 や、古墳時代中期から後期にかけての古墳が 多く残る入鹿池古墳群がある。また、現状大 半は滅失しているが、かつては 70 mを超えた とされる甲塚古墳、市内最大規模の30基を 超える古墳が造られた上野古墳群がある。

古代寺院については、奈良時代につくられ



羽黒城跡

た勝部廃寺、神宮寺跡がある。

城跡については、梶原氏が居館を構え、小牧・長久手 の戦いの際には山内一豊が守備した羽黒城跡、小牧・長 久手の戦いの際に秀吉が本陣を置いた楽田城跡がある。

窯跡については、東部丘陵に多くあったと言われており、 奈良時代から平安時代にかけて焼物を生産していた、堂ヶ 洞古窯、江戸時代の犬山焼に関連する今井焼窯跡、丸山 古窯などがある。

この他に、キリシタン供養塔のある五郎丸地区の山の 子社、街道沿いにある一里塚、万里塚などがある。



キリシタン供養塔

2) 名勝地

名勝地は22件あり、栗栖地区の不老の滝や、 池野地区の平成の名水百選にも選ばれている 八曽の滝、寛永 10 年 (1633) につくられ、世 界かんがい施設遺産に登録された、ため池入 鹿池、五条川の桜等がある。また、このほか に庭園としては、堀口捨巳が築庭し、国宝如庵 や重要文化財旧正伝院書院が所在する有楽苑 がある。



入鹿池

3) 動物・植物・地質鉱物

天然記念物は166件ある。動物は、哺乳類 ではミズモグラやアズマモグラ、魚類ではウ シモツゴ、昆虫ではギフチョウ等希少な動物 が生息している。植物は、市内全域で見られる 巨樹巨木、東部丘陵には絶滅危惧 IA 類のマメ ナシの自生地、絶滅危惧Ⅱ類のシデコブシの 自生地などの東部丘陵要素植物など貴重な植 物が生息している。地質鉱物は、木曽川周辺で



見られる赤茶色をしたチャートの岩石、栗栖地区で見つかったといわれるアンモナイトの化石、 善師野地区に分布する珪化木、植物化石などがある。

(5) 文化的景観

文化的景観は 29 件あり、木曽川と犬山城下 町の景観、東部丘陵の里山空間などがある。



(6) 伝統的建造物群

伝統的建造物群は1件あり、犬山城下町があ る。



犬山城下町

(7) その他(周囲の環境、自然環境、文化財に関する歴史資料や伝承(物語)、 伝統産業・地場産業、古くからの地名、方言など)

石上げ祭の起源となる山の背比べや、山姥 物語、木曽川のやろか水、入鹿切れ等の災害 に関する歴史資料や伝承(物語)、継鹿尾山や 尾張三山、八曽山などの自然環境、城下町に 残る町名や古くからの地名など様々な歴史文化 資源がある。



山姥物語絵巻